

議事要旨(6) 財務諸表表示専門委員会における検討状況（IASB公開草案対応）について

冒頭、新井副委員長（専門委員長）より、財務諸表表示専門委員会において、IASBの公開草案「その他の包括利益の項目の表示」（以下ED）に対するコメント（2010年9月30日期限）を検討している旨が説明され、さらに審議事項（6）－1に基づいて、ディスカッション・ポイント（①純損益及びその他の包括利益計算書の表示を1計算書のみとする提案については、1計算書のみとすることを否定しない「A案」と反対を明確にする「B案」を提示②その他の包括利益（OCI）の項目の表示をリサイクリング・ノンリサイクリングで区分する提案については、「同意する案」と純利益の役割を大幅に変えることになるリサイクリングしないOCI項目の存在を前提とした質問には回答しないとする「代替案」を提示）が説明された。引き続き中條シニア・プロジェクト・マネジャーより、審議事項（6）－2及び（6）－3に基づいて、EDの概要及び具体的なコメント案の内容に関する説明が行われた。

説明の後、委員等からの発言等は次のようなものであった。

- ディスカッション・ポイント①については、(a)包括利益計算書の名称を「純損益及びその他の包括利益計算書」に変更していること(b)当該計算書で純損益が明確に表示され、1株当たり利益の計算の出発点である旨を公開草案で記載していることから、A案に賛成する。利用者の観点からすると、包括利益単独よりも、純利益と対比したOCIの変動性に着目している点において、1計算書の方が理解しやすい。ディスカッション・ポイント②については、代替案に賛成し、EDのエングストロームIASB理事の代替的見解のように、現行の純損益が有意義である旨を主張すべきである。また、コメント案の最終個所に記載されている「リサイクリングの検討」を冒頭で総論として記載することを提案する。
- ディスカッション・ポイント①については、従来の日本の意見からすると懸念も生じるが、EDでは純損益が強調されていること及び一括して表示する方が見やすいことからA案を支持する。
- ディスカッション・ポイント①については、A案を支持する。計算書の名称については、“income statement”とすることを提案する。
- ディスカッション・ポイント①については、B案を支持する。仮にASBJが1計算書方式を否定しない旨のコメント・レターを提出する場合、日本の会計基準の方向性として1計算書とするようなメッセージを発信する結果となることを懸念する。
- 純損益の重要性とリサイクリングの必要性を従来から主張してきた経緯からすると、1計算書への統一よりも、純損益とその他の包括利益の包括的検討を先に議論すべきで

あり、ディスカッション・ポイント①については、その議論が完結するまでは、1 計算書と 2 計算書の選択適用を認めるべきであり、B 案を支持する。

以上の意見を受けて、事務局からは、ディスカッション・ポイント①については、専門委員会では作成者・監査人を中心に B 案を支持する意見が多かったものの、本委員会では A 案を支持する意見の方が多いことから A 案に基づく記載とし、また、リサイクリングを伴う純損益の重要性を強調するため、ディスカッション・ポイント②については、何が OCI に表示されるべきか、また、OCI に表示された項目をどの時点で純損益に振り替えるべきかを決定するための徹底的な概念的議論を行うべきであるとして、リサイクリングしない OCI を前提とした質問に回答しないとする代替案に基づくとともに、コメント案の最終個所に記載されている「リサイクリングの検討」を冒頭の総論で記載する方向性が確認された。

以 上